



認証番号0005548

環境経営レポート2024

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

発行日：2024年6月1日



日立建機グループ
新東北メタル株式会社

【 目 次 】

| | |
|--------------------------------------|-----------|
| 1. 環境経営方針 | 2頁 |
| 2. 事業概要 | 3頁 |
| (1) 事業者名及び代表者名 | |
| (2) 所在地 | |
| (3) 活動範囲 | |
| (4) 環境管理責任者及び連絡先 | |
| (5) 事業内容 | |
| (6) 事業規模 | |
| 3. 活動経営目標 | 4頁 |
| (1) 2023年度及び中期(2025年度)数値目標 | |
| (2) その他取組の行動目標 | |
| (3) 実施体制 | |
| 4. 実績・取組結果 | 5頁 |
| (1) 実績値と分析 | |
| (2) エネルギー使用量及びCO ₂ 排出量の推移 | |
| (3) 行動計画取組結果 | |
| 5. 2024年度及び中期(2026年度まで)目標 | 6頁 |
| (1) 経営〔数値〕目標 | |
| (2) 経営〔行動〕計画 | |
| (3) 実施体制 | 7頁 |
| 6. 活動状況 | 7頁 |
| 7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 | 8頁 |
| 8. 管理責任者の評価 | 9頁 |
| 9. 代表者による評価と見直し・指示 | 9頁 |

環境経営方針

基本理念

鑄鋼品の製造・販売を通して、内外から信頼される企業姿勢を確立すべく「環境との調和・社会との共生」を考えた環境経営システムを構築し、自主的かつ継続的な環境保全・改善活動の推進により広く社会に貢献します。

行動指針

- 1.電力、LPG等省エネルギー推進により、二酸化炭素削減を推進します。
- 2.廃棄物・水の削減等省資源に努めます。
- 3.化学物質の使用量削減、適正管理に努めます。
- 4.生産資材の環境配慮製品の活用を推進します。
- 5.鑄鋼品工場として、クリーンファクトリーを目指します。
- 6.生産工程改善、品質の向上により生産性向上を推進します。
- 7.環境関連法規等を順守します。
- 8.環境経営方針を全社員に周知徹底するとともに、環境保全・環境改善に関する意識向上のための教育と啓発に努めます。

2016年4月1日制定
2024年4月1日改定(第4版)

新東北メタル株式会社

社長 秋山 昇一

(1) 事業者名及び代表者名
 新東北メタル株式会社
 代表取締役社長 秋山 昇一

(2) 設立
 2001年4月1日

(3) 所在地
 本社・工場

〒018-3301

秋田県北秋田市綴子字上台121-2

TEL : 0186-62-2381 FAX : 0186-62-2387

HP : <https://www.shintoshokumetal.co.jp/>



当社生産部品が使用されている日立建機超大型ショベル EX5600

(4) エコアクション21の活動範囲
 本社・工場（全組織、全活動が対象）

(5) 環境管理責任者名及び連絡先
 責任者：管理部長 黒田 淳
 連絡先：TEL・FAX 所在地と同じ
 e-mail : m.kurota.rh@shintoshokumetal.com

(6) 事業内容
 鋳鋼品の製造・機械加工及び販売
 【建設機械、産業機械、橋梁、建築、他部品】

(7) 過去3年間の事業規模

| 規模 | 単位 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|------|----|---------|---------|---------|
| 資本金 | 千円 | 295,000 | 295,000 | 295,000 |
| 生産量 | t | 2,593 | 3,259 | 3,648 |
| 従業員数 | 人 | 98 | 99 | 100 |

環境経営方針及び現行負荷・取組内容等を踏まえ、日立建機グループ全体の目標を考慮した上で、実現可能と考えられる削減幅を設定して目標としている。

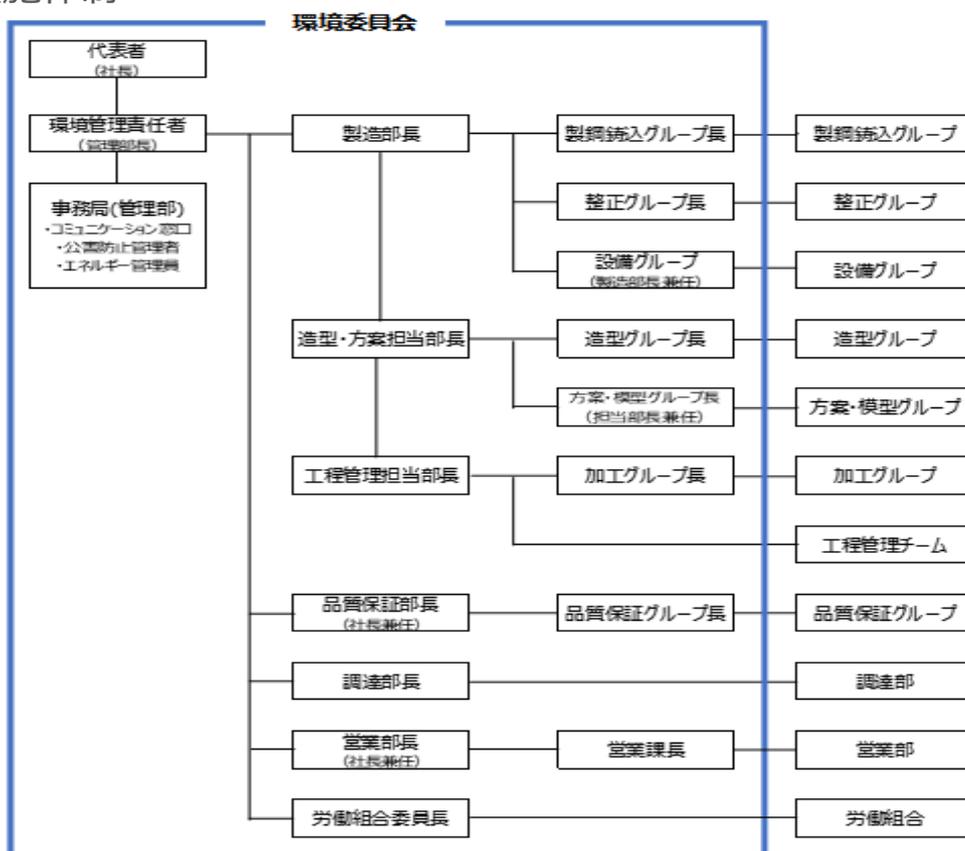
(1)2023年度及び中期(2025年度)数値目標【電力のCO2換算係数は0.447(調整後)として算出】

| 項目 | 単位 | 基準値 (2010年度) | 中期目標 (2025年度) | 2023年度目標 |
|--------------------|-------------------------------|-----------------|------------------|----------|
| 二酸化炭素排出量 (総量) | t-CO2 | 5,368 | 5120 | 5266 |
| 二酸化炭素排出量 (原単位) | t-CO2 /生産t | 1.70 | 1.33 | 1.23 |
| 水使用量 | m ³ /生産 t × 100 | 0.15 | 0.13 | 0.14 |
| 産業廃棄物排出量 | 産廃 t /生産t | 0.41 | 0.52 | 0.54 |
| 化学物質使用量 (V.O.C) | 使用 k g /生産t | 3.32 | 1.60 | 1.70 |

(2)その他取組の行動目標

- ・『環境適合品購入の推進』
エコマーク及びグリーンマーク製品他、適合品の優先購入を継続する。
- ・『環境保全意識の向上』
全従業員を対象に環境教育を実施する。
- ・『地域環境への協力』
年1回、地域のクリーンナップ活動に参加する。

(3)実施体制

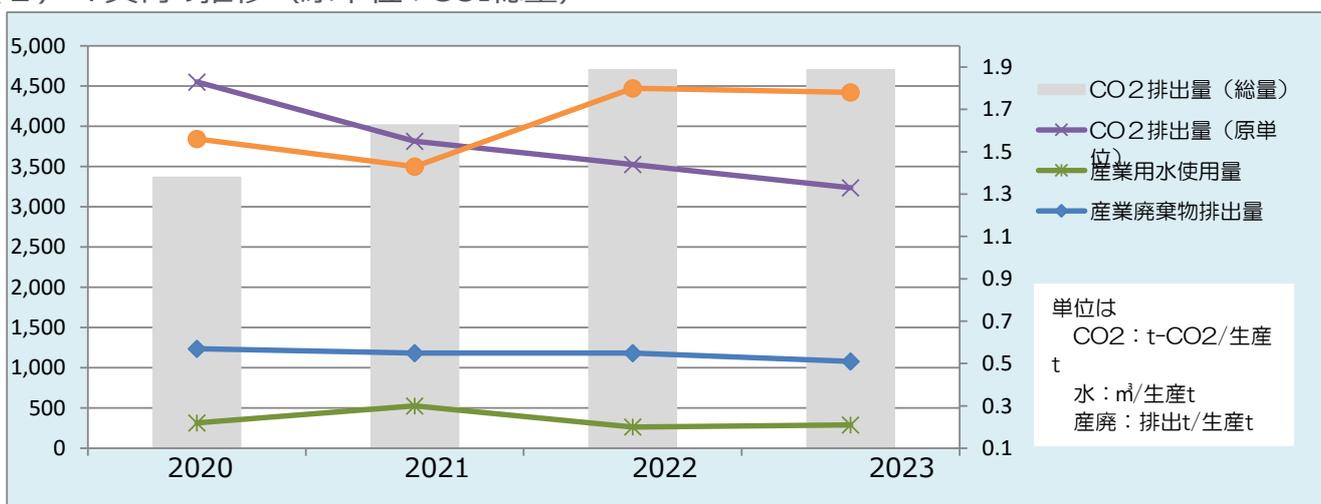


4. 実績・取組結果

(1) 実績値と分析【電力のCO2換算係数は0.488(調整後)としている】

| 項目 | 過去実績 | | | 2023年度 | | | 担当者コメント | |
|-----------------|-----------|---------|---------|-------------|-------------|---------|---|--|
| | 2020 | 2021 | 2022 | 目標 (原単位) | 実績 (原単位) | 達成率 | | |
| 生産量(t) | 1,844 | 2,593 | 3,259 | | 3,649 | | 年度内に下方修正した3,675tに、僅かに届かなかった。 | |
| CO2(t) | 総量(t-CO2) | 3,364.0 | 4,017.0 | 4,702.2 | 4,157.0 | 4,701.7 | 86.9% | 目標には大幅未達だったが、当初から再エネを購入しないと達成できないと見込んでおり、純粋な削減としては大いに検討したと捉えている。 |
| | 原単位 | 1.83 | 1.55 | 1.44 | 1.13 | 1.33 | 82.3% | 同上 |
| 事業用途水(m) | 0.37 | 0.30 | 0.20 | 0.17 | 0.21 | 76.5% | 水は事業用途が冷却水のみで使用量が少ない為、原単位は些細な要因で大きく変動する。冷却塔からの漏れ等を極力抑えようとしたが、人間的に出来ず。 | |
| 産業廃棄物(t) | 0.59 | 0.55 | 0.55 | 0.54 | 0.51 | 105.6% | 鉤さいの一部を有価物として売却した事等により、排出量が減少して達成となった。 | |
| 化学物質(V.O.C)(kg) | 1.56 | 1.55 | 1.80 | 1.75 | 1.78 | 98.3% | 年度内に目標を見直し下方修正したが、僅かに及ばず。塗型剤の使用量を削減できた事から、今後は達成方向に向かうものと見込んでいる。 | |

(2) 4 負荷の推移 (原単位+CO2総量)



(3) 行動計画取組結果

| 部門 | 取組内容 | 環境目標項目 | 実施状況※ | | | | |
|---------------------------|---|------------------|-------|-----|-------|-----|----|
| | | | 4~6 | 7~9 | 10~12 | 1~3 | 計 |
| 製鋼鑄込グループ | ①溶解後、炉内に残る溶鋼量を低減する。 | CO2削減 | 2 | 1 | 1 | 2 | 6 |
| | ②電圧及び通電時間を適正化し、溶解時間を短縮する。 | CO2削減 | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 |
| | ③排熱を活用してスクラップを予熱する。 | CO2削減 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 造型グループ | ①鑄型に使用するライン砂量を適正化し、薬品使用量低減及びミキサー稼働時間の短縮を図る。 | V.O.C削減 CO2削減 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| | ①鑄型に使用する陶管の量を低減する。 | 廃棄物削減 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| ②押湯の数・サイズを適正化し、整正工程を短縮する。 | | CO2削減 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| 整正グループ | ①熱処理炉の製品毎に温度・時間を見直して、LPG使用量を低減する。 | CO2削減 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | ②ショットブラスト機1台を更新した。 | CO2削減 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 加工グループ | ①汎用ターニングの効率的な作業標準を、製品毎に策定し共有する。 | CO2削減 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| | ②NCターニングの効率的な作業標準を、製品毎に策定し共有する。 | CO2削減 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| | ③マシニングの効率的な作業標準を、製品毎に策定し共有する。 | CO2削減 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 設備グループ | 超音波カメラでエア配管の漏れを確認し、補修する。 | CO2削減 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 管理部 | ①社有エンジン車2台をEV車1台に変更する。 | CO2削減 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| | ②厚生棟空調設備を更新する。(3箇年で全て入れ替え) | CO2削減 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| | ③事務用品を可能な限り、エコマーク・グリーンマーク商品にする。 | グリーン購入 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| | ④環境経営レポートを従業員全員に回覧し、意識向上を図る。 | 社員教育 | | 2 | | | 2 |
| | ⑤地域のクリーンナップ活動に参加する。 | 地域活動 | 1 | | | | 1 |

5. 2024年度及び中期(2026年度まで)目標

新東北メタル株式会社

(1) 経営〔数値〕目標【電力のCO2換算係数は0.447(調整後)としている】

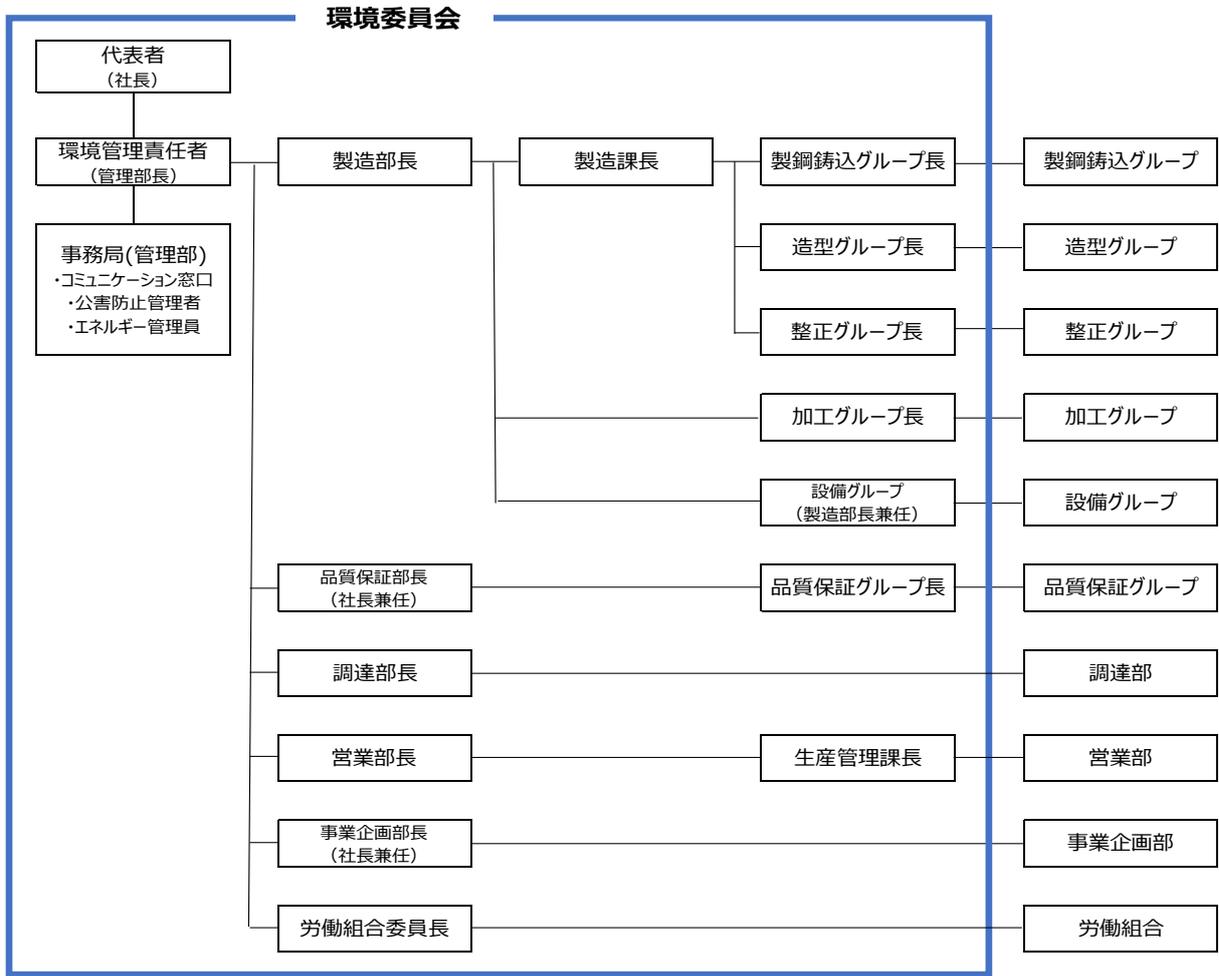
| コア指標 | 重要度 | 現取組 | リスク | 環境目標項目 | 責任部門 責任者 | 削減率又は増加率(%) 単位 | 基準年度(2010年度) 基準値 | 目標値(原単位) | | |
|------------|-----|-----|-----|--------------|-------------|------------------------|---------------------|----------|--------|--------|
| | | | | | | | | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 |
| 二酸化炭素排出量 | 3 | 2 | 1 | 二酸化炭素排出量の削減 | 管理部 黒田部長 | 発生量(t) | 5,368 | 4,100 | 4,012 | 3,775 |
| | | | | | | 生産量(t) | 3,162 | 2,821 | 3,626 | 3,608 |
| | | | | | | t-CO ₂ /生産t | 1.70 | 1.45 | 1.11 | 1.05 |
| | | | | | | 改善率(%) | — | 14.4 | 34.8 | 38.4 |
| 水使用量(事業用途) | 2 | 2 | 1 | 節水 | 管理部 黒田部長 | 使用量(m) | 461 | 640 | 660 | 660 |
| | | | | | | 生産量(t) | 3,162 | 2,821 | 3,626 | 3,608 |
| | | | | | | m/生産t | 0.15 | 0.23 | 0.18 | 0.18 |
| | | | | | | 改善率(%) | — | -55.5 | -24.7 | -25.4 |
| 廃棄物排出量 | 3 | 2 | 1 | 産業廃棄物排出量削減 | 管理部 黒田部長 | 発生量(t) | 1,298 | 1,436 | 2,160 | 2,160 |
| | | | | | | 生産量(t) | 3,162 | 2,821 | 3,626 | 3,608 |
| | | | | | | t/生産t | 0.41 | 0.51 | 0.60 | 0.60 |
| | | | | | | 改善率(%) | — | -24.0 | -45.1 | -45.9 |
| V.O.C排出量 | 3 | 2 | 3 | V.O.C取り扱い量削減 | 管理部 黒田部長 | 発生量(kg) | (2012) 30,537 | 4,850 | 5,500 | 5,500 |
| | | | | | | 生産量(t) | (2012) 5,672 | 2,821 | 3,626 | 3,608 |
| | | | | | | kg/生産t | 5.38 | 1.72 | 1.52 | 1.52 |
| | | | | | | 改善率(%) | — | 56.0 | 61.1 | 60.9 |

(2) 経営〔行動〕計画

| 部門 | 取組内容 | 環境目標項目 | 実施状況※ | | | | |
|----------|--|------------------|-------|-----|-------|-----|---|
| | | | 4~6 | 7~9 | 10~12 | 1~3 | 計 |
| 製鋼鑄込グループ | ①溶解後、炉内に残る溶鋼量を低減する。 | CO2削減 | | | | | |
| | ②電圧及び通電時間を適正化し、溶解時間を短縮する。 | CO2削減 | | | | | |
| | ③取鍋調整を確実に実施し、溶鋼漏れを防止する。 | CO2削減 | | | | | |
| 造型グループ | ①鑄型に使用するライン砂量を適正化し、薬品使用量低減及びミキサ稼働時間の短縮を図る。 | V.O.C削減 CO2削減 | | | | | |
| | ②型入作業を適正に行ない、鑄型からの溶鋼漏れを防止する。 | CO2削減 | | | | | |
| 事業企画部 | ①鑄型に使用する陶管の量を低減する。(紙管への変更含む) | 廃棄物削減 | | | | | |
| | ②押湯の数・サイズを適正化し、整正工程を短縮する。 | CO2削減 | | | | | |
| 整正グループ | ①熱処理炉の製品毎に温度・時間を見直し、LPG使用量を低減する。 | CO2削減 | | | | | |
| | ②仕上げ作業を適正化し、グラインダー使用時間を低減する。 | CO2削減 | | | | | |
| 加工グループ | ①汎用ターニングの効率的な作業標準を、製品毎に策定し共有する。 | CO2削減 | | | | | |
| | ②NCターニングの効率的な作業標準を、製品毎に策定し共有する。 | CO2削減 | | | | | |
| | ③マシニングの効率的な作業標準を、製品毎に策定し共有する。 | CO2削減 | | | | | |
| 設備グループ | 継続してエア配管の漏れを確認し、補修する。 | CO2削減 | | | | | |
| 管理部 | ①電力会社を変更し、排出係数を低減する。 | CO2削減 | | | | | |
| | ②厚生棟空調設備を更新する。(3箇年で全て入れ替え) | CO2削減 | | | | | |
| | ③事務用品を可能な限り、エコマーク・グリーンマーク商品にする。 | グリーン購入 | | | | | |
| | ④環境経営レポートを従業員全員に回覧し、意識向上を図る。 | 社員教育 | | | | | |
| | ⑤地域のクリーンナップ活動に参加する。 | 地域活動 | | | | | |

※未実施:0、実施-効果小:1、実施-効果中:2、実施-効果大:3

(3) 実施体制 (2024/4/1より一部組織改編)



6. 活動状況

新東北メタル株式会社

2024.5 クリーンアップ

産廃管理 (廃プラ)

2023.9

AKITA SDGs

購入 エコマーク製品

7

CO2削減の為、バッテリーフォーク、LED、EV車導入

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

新東北メタル株式会社

取組期間中の環境関連法規遵守状況は、2024年5月にチェックリストで確認し、その結果は下表の通り。廃棄家電の処分の一部不備があった。行政・地域住民・その他からの訴訟は過去3年間皆無である。

| 法規制等の名称 | 該当要求事項 | 該当する設備・項目 | 点検・測定頻度、実施時期 | 遵守評価 |
|---------------------------|---------------------------------|------------------------------|--|------|
| 大気汚染防止法 | 排出基準の遵守 | 電気炉 1基 | ばい煙濃度測定（3年間保存） 電気炉 6回/年 ガス炉 2回/年 | ○ |
| | 測定・記録義務 | ガス炉 4基 | | ○ |
| 公害健康被害の補償等に関する法律 | 汚染負荷量賦課金の申告及び納付 | 旧舟見工場加熱炉 （過去の実績） | 年度初日から45日以内に申告及び納付 | ○ |
| フロン排出抑制法 | エアコン等定期点検実施 | 第1種フロン特定製品 （7.5KW未満） | 1回/3ヶ月 | ○ |
| 浄化槽法 | 保守点検、清掃、水質検査 | 浄化槽（50人槽） | 点検4回/年、清掃1回/年、検査1回/年 | ○ |
| | | 浄化槽（10人槽） | 点検3回/年、清掃1回/年、検査1回/年 | ○ |
| エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法） | 特定事業者、エネルギー管理指定工場の指定 | 第二種エネルギー管理指定工場 （第二種特定事業者） | 7月末 | ○ |
| | 中長期計画書の提出 | | 7月末 | ○ |
| 地球温暖化対策の推進に関する法律 | 温室効果ガス算定排出量の報告 | | 7月末 | ○ |
| 県温暖化対策推進条例 | 温室効果ガス排出量等報告書の提出 | | 7月末 | ○ |
| 廃棄物処理法 | 委託基準：一廃収集業者の許可の確認 | 一般廃棄物収集運搬委託 | 都度 | ○ |
| | 委託基準：産業収集運搬・処理業者の許可の確認、契約 | 産業廃棄物委託処理 | 都度 | ○ |
| | 保管基準掲示板：規定サイズ飛散・浸透防止、衛生管理 | 産業廃棄物保管 （ばいじん・銻さい・他） | 都度 | ○ |
| | マニフェスト交付 （産業廃棄物管理票） | 産業廃棄物委託処理 | 都度 | ○ |
| | マニフェストの保管 | 〃 | 5年間 | ○ |
| | 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 | 〃 | 6月末まで | ○ |
| | 多量排出事業者の報告（1,000t/年以上） | 2022年度 1,806t | 6月末まで | ○ |
| | 処理の状況について確認の努力義務 （排出者責任） | 産業廃棄物委託処理 | 1回/年 | △ |
| 家電リサイクル法 | 有用部や材料をリサイクルし、廃棄物減量、資源有効利用を推進する | 社内で使用しているテレビ、冷蔵庫等 | 都度 | △ |
| PRTR法 | 排出量等の把握及び届出 | クロム・マンガン・モリブデン、それぞれ1t以上取扱 | 6月末まで | ○ |
| 毒物及び劇物取締法 | 毒物及び劇物の取扱、表示 | 硬化剤 NC100 | 容器に施錠、劇物表示 | ○ |
| 高圧ガス保安法 | 定期自主検査 | CE設備 | 2回/年 | ○ |
| | | LPGタンク | 1回/年 | ○ |
| | | CO2設備 | 1回/年 | ○ |
| 環境活動・環境教育推進法 | 環境保全に関する知識・技能の向上のため教育を行うよう努める | | 年1回レポート回覧 月1回環境会議録回覧 | ○ |

8. 管理責任者の評価

新東北メタル株式会社

| 評価項目 | 内容 |
|--------------------------------|--|
| ①環境関連法の遵守状況 | 製鋼場電気炉にて、家庭から持参した冷蔵庫を溶解していた事が判明した。これが初めてではなく、従来から複数の従業員により同様の行為が行われていた。外部への排出・廃棄ではなく社内で行えるという事で、法令違反の意識が薄かったものと思われる。全員を対象に、家電リサイクル法の概要及びコンプライアンス遵守の重要性について教育を実施し、再発防止を図った。 |
| ②環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価結果 | 『CO2排出量削減』は、生産量(出荷量)は前年比112%と大きく増加したのに対し、CO2発生総量は様々な施策が効果を発揮した事から4,702tと、前年比約2%の増加に抑えられた。しかし目標に対しては、545tオーバーの未達であった。 『水使用量削減』は、元々の使用量が少ないことから些細な要因で大きく実績が変動する。23年度は、冷却水塔の故障による漏水等により使用量が増加し大幅未達。 『産業廃棄物削減』は、鋳さいの一部を売却した事により処分量が幾分か減少して、廃棄物全体でも唯一達成となった。 『V.O.C削減』は年度内に下方修正した目標に対し、僅かにオーバーして未達だったが、大きな割合を占める塗型剤が作業方法を変更した事により使用量を大幅に低減できている為、来年度以降は達成できるものと見込んでいる。 活動計画は、主にエネルギー削減をRT施策として登録し部門毎に進めており、成果もそれなりに挙がっているものの目標達成の為にはまだ不足であり、更なる取り組み・施策の積み上げが必要。 |
| ③問題点の是正処置及び予防処置の結果 | 2022年度も今年度と同様、CO2・水・VOCが未達であり、是正・予防処置はこの3項目未達の改善としていた。CO2は、上項の通り様々な取り組みにより大きく低減できたものの目標に対しては大幅未達となった。水も上項の通りで、冷却水塔の漏れ防止の為、設備保全を強化するとしていたが人員不足で実施できず、未達。VOCも計画していた通り目標を見直したが、僅かに未達となった。 |
| ④外部からの苦情等の受付結果 | 無し。 |
| ⑤組織に影響する法規制動向 | 無し。 |
| ⑥グリーン購入の推進状況 | 価格を考慮したうえで、積極的に継続購入している。 |
| ⑦エコアクション環境改善提案 | 今年度は無し。 |
| ⑧その他 | 毎月の『安全衛生・環境会議』議事録を全従業員に回覧し、安全意識と共に環境意識向上を継続的に図っている。また、親会社日立建機(株)環境部門の指導を受けながら、取組を進めている。 |

9. 代表者による評価と見直し・指示

新東北メタル株式会社

| 見直し項目 | 評価 | 指示事項 |
|-------------------|--|--|
| 1. 環境経営方針 | 問題なし。 | 環境方針を遵守し、事故を発生させないこと。 |
| 2. 環境経営目標及び環境経営計画 | 2024年度は2023年に比較して生産量約20%の低減見込みであり、CO2排出量も低減すると想定される。 | 生産量減によるCO2排出量減に満足することなく、アーク炉電力原単位低減など積極的な低減策を図ること。 |
| 3. 実施体制 | RT活動に施策登録し、各部署で推進している。 | 昨年度未達であったCO2, VOC, 産廃の進捗を全員で共有し、達成するよう是正処置をタイムリーの行うこと。 |
| 4. その他 | 特になし。 | 特になし。 |



大館能代空港搭乗口壁面に掲示中



AKITA SDGs

発行:新東北メタル株式会社 管理部